

令和3年度 学校評価総括表

(徳島県立徳島科学技術高等学校 全日制課程)

基本方針	科学技術の高度化・複合化，社会の変化や産業界の要望に対応した専門教育を展開する。
基本目標	① 礼儀，責任，勤労，技術の調和のとれた教育を推進し，心豊かで創造力に富み，主体的・協働的に行動できる人間を育成する。 ② 基本的人権を尊重し，自他を大切にし，地域社会や国際社会に貢献できる人間を育成する。 ③ 技術革新や社会の要請に対応しうる，実践力を身につけた技術者を育成する。
重点目標	① 進学希望者と就職希望者の両者を支援するハイブリッド型(複線型の進路体系)教育システムを生かし，生徒の知識・技術・技能・態度を育成する教育を展開する。 ② 工業・水産教育を核とした教育活動全体を通して，目標を設定し挑み続け，主体的に学習し，他者と協働できる人材の育成を図る。 ③ 持続可能な社会の実現に向けた取組や技術者としての規範意識や倫理観の育成など，これからの社会に求められる特色ある教育活動を実践する。

達成度	A	十分達成できた	C	変化の兆しがあった
	B	概ね達成できた	D	達成が不十分であった

本年度の具体的目標	テーマ 規範意識や倫理観の高揚に努め，豊かな人間性を育むとともに，SSHでの取組を主体的・対話的で深い学びの実現につなげ，目標や課題に粘り強く挑戦するチャレンジ精神や，社会の変化に対応できる力を養う教育を推進する。
	① 文武両道を実践し，何事にもチャレンジ精神をもって，主体的に取り組むとともに他者と協働する態度を養う。 [主体的・協働的に取り組む姿勢の育成] ② 社会的・職業的自立に必要な知識・技術・技能・態度を身につけ，社会の変化に対応でき，地域社会や産業界に貢献し得る実践的な技術者を育成する。 [専門教育の推進] ③ 「徳島県キャリア教育推進指針Ⅱ」に基づき，変化の激しい社会を生き抜く力を身につけるキャリア教育を推進する。 [キャリア教育の充実]

年度総合評価

重点課題	SSH部	人権教育	学習指導	生徒指導	進路指導	教育相談 特別支援教育	環境教育	防災教育	保健安全教育	特別活動	工業・水産教育 (高大連携) (インターシップ)	工業・水産教育 (スキルスタンダード) (資格) (コンテスト)	家庭・地域との連携
番号	1, 2	3, 4, 5	6, 7, 8	9, 10, 11, 12	13, 14, 15, 16	17, 18, 19	20	21	22	23, 24	25	26	27, 28, 29
総合評価													

学校自己評価

年度目標					年度評価(3月1日現在)			
番号	重点課題	重点目標	活動計画	活動の評価指標(目標値)	評価指標の達成状況	総合評価	効果と検証	次年度への課題と改善策
1	SSH部 ① SSH事業の取組を行うことにより，理数系教育を通して，科学技術人材の育成を図る。	① 課題研究発表会等により，プレゼンテーション能力の育成を図り，主体的に取り組む能力を養う。 (SSH部・各課・コース)	① 年度末にSSH研究発表会を開催する。 ② 各種コンテスト，発表会等に積極的に参加する。	① 各コースごとに研究テーマを発表する。 発表を11テーマ以上とする。 ② 各種コンテスト等に参加し，入賞以上を目指す。	(評価指標による達成度) (活動計画の実施状況)	(達成度) (所見)		
2		② SSHの取組により，生徒の興味や関心を持たせる。 (SSH部・各課・コース)	① 魅力あるSSH事業を展開し，理科・数学への興味や関心を向上させる。	① 「SSHの各種事業に参加して，科学技術に興味・関心が増した」70%以上。	(評価指標による達成度) (活動計画の実施状況)	(達成度) (所見)		

学 校 自 己 評 価								
年 度 目 標					年 度 評 価 (3 月 1 日 現 在)			
番 号	重 点 課 題	重 点 目 標	活 動 計 画	活 動 の 評 価 指 標 (目 標 値)	評 価 指 標 の 達 成 状 況	総 合 評 価	効 果 と 検 証	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策
3	人権教育 ① 基本的人権を尊重し、自他を大切にし、地域社会や国際社会に貢献できる人間を育成する。	① 人権尊重の精神の涵養が図られるよう、教育活動全体の中で、人権教育を推進する。 (進路部・人権教育課)	① ホームルーム年間計画で予定した個人権課題に対応する学習を通して、生徒の人権尊重の精神の涵養を図る。ホームルーム活動(人権)において、人権委員が積極的な参加を促すとともに、活動の記録を記入する。 ② 家庭・地域への積極的な啓発に努め、学校・家庭・地域が一体となって展開する人権教育活動を充実させる。	①-1 学校評価(生徒)人権教育に積極的に取り組んでいる。「そう思う」が昨年より5%アップ。 ①-2 ホームルーム活動(人権)の内容理解と積極性の記録で4段階評価が3.3以上。 ② 学校評価(保護者)人権教育に積極的に取り組んでいる。「そう思う」が昨年より5%アップ。	(評価指標による達成度) (活動計画の実施状況)	(達成度) (所見)		
4		② 安心して楽しく学べる学習環境の整備に努め、豊かな人間性を育成し、主体的に学んだことを行動に結びつけることのできるスキルを養う。 (進路部・人権教育課)	① 人権委員を中心として、教室や廊下などの美化活動を行い学習環境の整備に積極的に努める。 ② 人権問題研究部(部活動)を活発に行う。中・高生による人権交流集会に参加し、その内容を学校全体に伝え人権意識の高揚を図る。	① かべピカ活動を年8回行う。 ② 中・高生による人権交流事業生徒部会に延べ15人以上参加する。	(評価指標による達成度) (活動計画の実施状況)	(達成度) (所見)		
5		③ 生徒一人一人の居場所があり、安心して過ごせるホームルームや学校全体の雰囲気づくりを行う。 (進路部・人権教育課)	① 教職員一人一人が豊かな人権意識を身につけ、人権感覚を磨くことができるよう校内外の研修への参加を積極的に行う。 ② かぎまる人権dayで人権委員が挨拶運動や放送での呼びかけを行い、生徒の人権意識の高揚を図る。 ③ 人権意識調査やインターネット意識調査、人権教育講演会アンケートを実施し、生徒の人権意識の変容を確かめる。	① 学校評価(教職員)人権教育に積極的に取り組んでいる。「そう思う」が昨年より5%アップ。 ② 人権委員による挨拶運動を年7回実施する。 ③ 調査やアンケートなどを4回行い結果を生かした人権教育を進める。	(評価指標による達成度) (活動計画の実施状況)	(達成度) (所見)		

学 校 自 己 評 価								
年 度 目 標					年 度 評 価 (3 月 1 日 現 在)			
番 号	重 点 課 題	重 点 目 標	活 動 計 画	活 動 の 評 価 指 標 (目 標 値)	評 価 指 標 の 達 成 状 況	総 合 評 価	効 果 と 検 証	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策
6	学習指導 ① 課題学習の工夫や個別指導を充実させることにより、生徒の個性を伸ばし、主体的に取り組むとともに他者と協働する態度を養う。 ② 社会的・職業的自立に必要な知識・技術・技能・態度を身につけ、社会の変化に対応でき、地域社会や産業界に貢献し得る実践的な技術者を育成する。	① 基礎・基本の定着を図り、それを活用した実践的な知識や技能を身につけさせる。 (教務部・教務課)	① 学びの基礎診断認定ツールであるスタディーサポートを活用し、分析会を開き、生徒の実態把握に努める。その分析結果を基に、各教科ごとに課題を見極め、その課題を解決するために、教員の具体的な取組を定め実行する。	①-1 スタディーサポート実施教科については分析結果を基に校内学力向上のための実行プランを作成する。 ①-2 校内学力向上のための実行プランの最終評価値の平均3.2以上を目指す。	((評価指標による達成度) (活動計画の実施状況)	(達成度) (所見)		
7		② 普段の授業から、思考力・判断力・表現力を養い、主体的に学習に取り組む態度を身につけさせる。 (教務部・教務課) ③ 将来を見据えた望ましい職業観を育成し、主体的・協働的に学習する態度を育てる。 (教務部・教務課)	② 教育活動の中で、生徒の実態に応じて、アクティブラーニングなどの手法を用い、気づき・発見、考え、まとめ、伝えることを通して他者と協働しながら主体的に学習する力を養成する。 ③ 類での専門教育や職業内容の研究を通して、将来の就職等への具体的な目標を持ち、その達成のために主体的に学習に取り組む態度を育てる。 また、実験・実習において他者と協働した学習活動を通して人間関係形成・社会形成能力を育て	②-1 今年度授業評価における理解度のポイント数を昨年度の0.1%アップを目指す。 ②-2 今年度授業評価における主体性(授業準備、授業態度、興味関心)のポイント数を昨年度の0.3%アップを目指す。 ③-1 今年度授業評価における自己評価のポイント数を、昨年度の0.3%アップを目指す。 ③-2 今年度授業評価における試験勉強と授業の積極性のポイント数を、昨年度の0.1%アップを目指す。	(評価指標による達成度) (活動計画の実施状況) (評価指標による達成度) (活動計画の実施状況)	(達成度) (所見) (達成度) (所見)		

			る。					
8		④ 読書の奨励を図り、基礎学力の向上と生涯にわたり学び続ける能力を育てる。 (教務部・教育情報課)	④ 図書館の積極的な活用を図り、読書の奨励を行う。	④ 図書貸出数が月間300冊以上を目指す。	(評価指標による達成度) (活動計画の実施状況)	(達成度) (所見)		

学 校 自 己 評 価

年 度 目 標

年 度 評 価 (3 月 1 日 現 在)

番 号	重点課題	重点目標	活動計画	活動の評価指標 (目標値)	評価指標の達成状況	総合評価	効果と検証	次年度への課題と改善策
9	生徒指導 ① 基本的な生活習慣を身につけさせる。遅刻者数を減少させる。最低限昨年度の数値を維持する。また、家庭との連携を密にする。 ② 遵法精神の涵養と意識の高揚と知識の定着を図る。また、全教職員が温度差のない指導が行えるようにする。 ③ 交通道徳を遵守させ、登下校時の交通安全指導を徹底させる。	① 基本的な生活習慣の確立を図り、時と場にふさわしい礼儀・あいさつ・言葉遣いを身につけさせるとともに、遅刻回数の減少から規則正しい生活リズムを構築させる。 (指導部・生徒課)	① 遅刻カードを用いた遅刻指導を徹底する。家庭との連携により、規則正しい生活習慣を身につけさせる。 ② 外来者へのあいさつを徹底する。また、集会時において、8Sの一つである「躰」を徹底する。 ③ 問題行動の未然防止に努める。	① 月間登校時遅刻率を1.0%未満とする。(1日当たり9.0人)遅刻の多い生徒については月4回以上で個別指導、月8回以上で保護者を交えての指導を行う。 ② 毎月規律指導の週に、コース長や学年主任(学年副主任)、当日日直、生徒課員で正門における登校時身だしなみ指導を実施する。 ③-1 毎時の休憩時間において輪番制による校内巡視を実施し、各教室の施錠および生徒の生活状況を確認し防犯等に努める。 ③-2 HR担任と日直が連携し、放課後の教室施錠を徹底する。	(評価指標による達成度) (活動計画の実施状況)	(達成度) (所見)		
10	③ 交通道徳を遵守させ、登下校時の交通安全指導を徹底させる。	② 定期的に規律指導を行い、ルール遵守から集団生活の規律向上に努める。自ら率先して考え、判断・行動のできる能力を育てる一助とする。 (指導部・生徒課)	① 一人一人が充実した学校生活を送る中で、自分を大切にすることが他人を思いやることにつながることを気づかせる。 ② 喫煙・飲酒・薬物乱用防止に対する講話、携帯電話・スマートフォン(WEB関係を含む)安全教室、制服を美しく着こなすセミナーを実施することで、心の躰を向上させる一助とする。	① 規律指導を毎月初めに実施し、指導を徹底する。各回とも違反者については、一定期間内で完全に直させる。 ② 喫煙・飲酒・薬物乱用防止に対する講話やゲーム依存ネット障害や携帯電話(WEB関係を含む)安全教室、制服を美しく着こなすセミナーを開催し、生徒の意識高揚と知識の定着を図る。	(評価指標による達成度) (活動計画の実施状況)	(達成度) (所見)		
11	④ 生徒が安全で安心して生活できる教育環境を整え、自己実現の一助とする。	③ 「学校安全の日」、「交通マナーアップクラブ」及び所轄警察署の指導等を通して、交通安全教育の一層の徹底を図る。 (指導部・生徒課)	① 毎月20日を「学校安全の日」とし、教職員や保護者、生徒課員が連携して、通学時に混雑が予想される場所において登校指導を行う。 ② 自転車点検や駐輪場での施錠確認、駐輪状態確認を行う。交通安全教育を充実し、道路交通法を遵守させる。 ③ 生徒を主体とした交通マナーアップ運動の推進を図る。	① 年間を通して、日直と生徒課員が、正門を含む学校近隣において、登下校指導を行う。特に、毎月20日には、輪番制で各学年PTA役員と教職員が共同で登校指導を行う。 ② 年間5回の自転車点検を実施する。駐輪場における自転車施錠の習慣と駐輪状態の整理整頓を身につけさせる。傘差し運転の禁止と雨合羽着用の指導を繰り返し行う。 ③ 生徒会や交通委員によるあいさつ運動と生活委員による駐輪場の整理・整頓などを行う。	(評価指標による達成度) (活動計画の実施状況)	(達成度) (所見)		
12		④ 教育活動全体を通し	① 定期的に校内巡視を行い、いじ	① 各学期末に、年合計3回の	(評価指標による達成度)	(達成度)		

	て、全生徒に「いじめは絶対に許されないこと」との理解を促し、心の通う人間関係を構築する能力の素地を養う。 (指導部・生徒課)	めの未然防止に努める。またいじめ・体罰被害アンケート調査を各学期末に実施する。	いじめ・体罰被害アンケート調査を実施する。また毎時休憩時間に輪番制による校内巡視を実施し、生徒の生活状況を確認する。	(活動計画の実施状況)	(所見)		
--	---	---	--	-------------	------	--	--

学 校 自 己 評 価								
年 度 目 標					年 度 評 価 (3 月 1 日 現 在)			
番 号	重 点 課 題	重 点 目 標	活 動 計 画	活 動 の 評 価 指 標 (目 標 値)	評 価 指 標 の 達 成 状 況	総 合 評 価	効 果 と 検 証	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策
13	進路指導 ① 将来を見据えた望ましい職業観・勤労観の育成と、生徒一人一人に対応した柔軟な進路指導を展開する。 ② 求人企業の確保と進学に向けての適切な指導を行う。 ③ 進路達成に向けて学習指導の充実を図る。	① 進路への興味・関心を喚起し、将来を見据えた望ましい職業観・勤労観を養う。 (進路部・就職課・進学課)	① HRへ各種進路情報を提供する。(模試・ガイダンス・推薦・求人・工場見学等)	① HRへの情報の提供満足度80%以上。	(評価指標による達成度) (活動計画の実施状況)	(達成度) (所見)		
14		② 生徒一人一人の能力・適性、興味・関心に対応した組織的・継続的な進路指導を展開する。 (進路部・就職課・進学課)	② 生徒一人一人の理解を深めるために個人面談や三者面談を実施する。また、生徒の希望や能力に応じた進路希望を実現するため、進学・就職補習および進路相談を充実させる。	② 適性・希望に対応した進路指導に対する満足度80%以上。 就職内定率100%。	(評価指標による達成度) (活動計画の実施状況)	(達成度) (所見)		
15		③ ICTを利用して、生徒の学校や家庭での生活を把握し、改善に努める。 (進路部・就職課・進学課)	③ ICTを利用して、学習記録や考査等のテスト成績を記録し、HR担任と生徒・保護者との面談の資料として活用し、主体的な取組が行えるように促す。	③ 科学系の平日の家庭学習時間を2時間以上、休日の家庭学習時間を3時間以上。	(評価指標による達成度) (活動計画の実施状況)	(達成度) (所見)		
16		④ 進路ガイダンスや講演会等を通して、キャリア教育の充実を図り、社会人として自立できる資質や自ら進路を決定できる能力を養う。 (進路部・就職課・進学課)	④ 生徒の希望に添ったガイダンスを各学年にて実施する。また、進路講演会等により、勤労観、職業観を養い、職業に対する意識の高揚を図る。	① 進路ガイダンス実施後満足度80%以上。 進路講演会等実施後満足度80%以上。	(評価指標による達成度) (活動計画の実施状況)	(達成度) (所見)		

学 校 自 己 評 価								
年 度 目 標					年 度 評 価 (3 月 1 日 現 在)			
番 号	重 点 課 題	重 点 目 標	活 動 計 画	活 動 の 評 価 指 標 (目 標 値)	評 価 指 標 の 達 成 状 況	総 合 評 価	効 果 と 検 証	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策
17	教育相談・特別支援教育 ① 相談・支援活動を充実させる。	① 生徒の変化を見逃さない。 (指導部・教育相談課)	① 生徒の出席状況の把握と支援の検討。 ② 専門機関との連携。	① 欠席の続く生徒に関して適切な対応を検討する。 ② 必要に応じて専門機関との連携を図る。	(評価指標による達成度) (活動計画の実施状況)	(達成度) (所見)		
18		② 相談活動を充実させる。 (指導部・教育相談課)	① 教育相談室の放課後利用。 ② 相談事業の広報。	① 放課後に相談室を開室する。スクールカウンセラーを活用した教育相談室の利用を図る。 ② 「ほっとだより」を各学期1回以上発行する。	(評価指標による達成度) (活動計画の実施状況)	(達成度) (所見)		
19		③ 学校全体での支援体制の充実を図る。 (指導部・教育相談課)	① 校内研修会の開催。	① 校内研修会やワークショップを年1回以上開催する。	(評価指標による達成度) (活動計画の実施状況)	(達成度)		
20	環境教育 ① 各クラスの環境整美委員会を中心に、HR担任や清掃分担の教員の協力のもと日	① 日々の清掃活動の充実を図り、美しい環境が整った学校づくりに努め、次に使う人の立場に立った「いつもきれいに清掃で心を磨く科技高生」の実践を行う。	① 校内美化週間期間中、環境整美委員会を中心に清掃の徹底、ゴミ分別の徹底、ロッカー・掲示物の整理整頓等丁寧に行う。 ② 学校行事(体育祭、文化祭)などの際に発生する、ゴミ問題について、環境整美委員会を中心とし	① 日頃の清掃、ゴミの分別の徹底、ロッカー・掲示物の整理整頓がなされたか。 ② 校内への泥汚れ侵入禁止。 ③ 学校行事(体育祭、文化祭)などの際、環境美化やゴミ問題に対するモラルやマナー	(評価指標による達成度) (活動計画の実施状況)	(達成度) (所見)		

	頃の清掃指導の徹底を行う。	(特活部・環境教育課)	た環境美化に関するモラルやマナー「マナーを守り、自分のゴミは持ち帰る。」の啓発活動を行う。	が守れたか。				
21	防災教育 ① 防災委員、防災クラブの活動をベースとして、災害時に命を失わない、役に立つ心を育成する。	① 地域と共に防災活動を行い、社会の一員として、求められている防災マインドを育てる。 ② 災害時を含め、社会で主体的に動ける心を育てる。(防災教育)	① 地域と共催の防災訓練を企画、実行する。 ② 災害時に必要な器具等を使う訓練を日常から行う。	① 2カ所以上の他団体と共催し200名以上の参加を目指す。 ② 炊き出し訓練や日頃の準備として、効率面、衛生面、実用面などを考慮した器具等を選別、使用出来ることを目指す。	(評価指標による達成度) (活動計画の実施状況)	(達成度) (所見)		

学 校 自 己 評 価								
年 度 目 標					年 度 評 価 (3 月 1 日 現 在)			
番号	重点課題	重点目標	活動計画	活動の評価指標 (目標値)	評価指標の達成状況	総合評価	効果と検証	次年度への課題と改善策
22	保健安全教育 ① 保健安全に関する指導・情報提供を行う。 ② 生徒保健厚生委員会による環境整備・安全点検を行う。	① 生涯を通して、健康で活力がある生活を送るために、健康の保持増進に関する指導の充実を図る。(特活部・保健厚生課)	① 定期健康診断や保健だよりの発行等により健康に関する情報提供を行う。 ② 生徒保健厚生委員会を中心に、教室内の環境整備・安全点検、AEDの定期点検等を実施する。 ③ 学校行事における保健安全活動を充実させる。(特活部・保健厚生課)	①-1 定期健康診断受診率100%。 ①-2 保健だよりの発行。(月1回) ②-1 生徒保健厚生委員会活動。(月2回) ③-1 HR活動等における保健講演会の開催(年1回) ③-2 文化祭における保健展を開催する。	(評価指標による達成度) (活動計画の実施状況)	(達成度) (所見)		
23	特別活動 ① 特別活動への生徒の自主的な取組を充実させる。	① 生徒自ら率先して各種活動に取り組むことのできる学校行事、生徒会活動の充実を努め、集団活動を通してコミュニケーション能力の向上を図る。(特活部・特別活動課)	① 生徒による集会時の司会進行、記録、挨拶を今以上に取り入れ、自主的に運営できるように指導する。 ② 文化祭・体育祭の内容の多様化・充実化を図り、生徒が意欲的に取り組む学校行事を目指す。 ③ みちピカ事業で周辺地域への清掃奉仕活動を行い、仲間と協力して活動ができる能力を身につける。	① 生徒総会、壮行会、予餞会を生徒が100%運営する。 ② 文化祭への生徒の満足度90%。 体育祭への生徒の満足度85%。 ③ みちピカ事業参加者平均70名。	(評価指標による達成度) B (活動計画の実施状況) コロナ渦で感染対策を十分に 行った上で生徒の活動をできる 限り重視して行う予定	(達成度) B (所見) コロナウイルス 感染防止対策のため、 予餞会を縮小して行った。		
24	② 部活動の更なる活性化を図る。	② 部活動を充実・活性化させ、日々の活動を通して精神面、体力面での成長を図るとともに、団結心や協力心を育成する。(特活部・特別活動課)	① 部紹介・体験入部を実施し、部活動の入部を促進する。 ② 部活動の活動内容や成績を積極的に広報し、生徒の意欲を高め、校内の共通理解・協力体制を強化する。	① 入部率80%以上。 ② 表彰伝達を毎月行う。	(評価指標による達成度) (活動計画の実施状況)	(達成度) (所見)		

学 校 自 己 評 価								
年 度 目 標					年 度 評 価 (3 月 1 日 現 在)			
番号	重点課題	重点目標	活動計画	活動の評価指標 (目標値)	評価指標の達成状況	総合評価	効果と検証	次年度への課題と改善策
25	工業・水産教育 ① 工業の基礎・基本を重視するとともに地域や産業界と連携した教育の在り方を模索し、社会の変化や産業界の動向に適切に対応し得る人材	① 工業・水産教育のそれぞれの特長を生かした教育を推進し、実験・実習や課題研究、インターシップ等の体験的な教育活動を展開する。(各課・コース)	・情報科学コース ① オープンキャンパスや大学講義を受け大学との連携を密にするとともに、生徒の進路選択に役立てる。 ・環境科学コース ① オープンキャンパスや大学講義を受け大学との連携を密にするとともに、生徒の進路選択に役立てる。	・情報科学コース ① 大学と連携した講義やオープンキャンパスへの参加を年3回以上実施する。 ・環境科学コース ① 大学と連携した講義やオープンキャンパスへの参加を年3回以上実施する。	・情報科学コース (評価指標による達成度) (活動計画の実施状況) ・環境科学コース (評価指標による達成度) (活動計画の実施状況)	・情報科学コース (達成度) (所見) ・環境科学コース (達成度) (所見)	・情報科学コース ・環境科学コース	・情報科学コース ・環境科学コース

の育成を目指す。

<ul style="list-style-type: none"> ・機械コース ① 工場見学において職場を見学する。また、インターンシップを通じて企業との連携を密にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・機械コース ①-1 大手企業の工場見学を全員に対して実施する。また、2年生の30%以上の生徒に対して、インターンシップを実施する。 ①-2 インターンシップ実施においては、生徒の希望する職場に応じた企業を斡旋する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・機械コース (評価指標による達成度) (活動計画の実施状況) 	<ul style="list-style-type: none"> ・機械コース (達成度) (所見) 	<ul style="list-style-type: none"> ・機械コース 	<ul style="list-style-type: none"> ・機械コース
<ul style="list-style-type: none"> ・生産システムコース ① 学習内容や就職先を勘案し、有意義な工場（職場）見学を行う。 ② インターンシップを通じて技術者として生きることを体験する。参加については参加者の自主性を重んじることに重点を置く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産システムコース ① 県内外企業の工場見学を全員に対して実施する。 ② インターンシップは2年生で行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産システムコース (評価指標による達成度) (活動計画の実施状況) 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産システムコース (達成度) (所見) 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産システムコース 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産システムコース
<ul style="list-style-type: none"> ・電気コース ① 生徒の視野を広め、主体的な進路選択につながるような機会として、会社見学・インターンシップを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電気コース ①-1 各学年1回以上の企業見学。 ①-2 インターンシップ2社以上の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電気コース (評価指標による達成度) (活動計画の実施状況) 	<ul style="list-style-type: none"> ・電気コース (達成度) (所見) 	<ul style="list-style-type: none"> ・電気コース 	<ul style="list-style-type: none"> ・電気コース
<ul style="list-style-type: none"> ・情報通信コース ① インターンシップや企業・大学訪問を通じて企業や大学との連携を密にするとともに、生徒の進路選択に役立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報通信コース ①-1 企業・大学訪問を実施する。 ①-2 インターンシップにHR生徒の2割以上の参加を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報通信コース (評価指標による達成度) (活動計画の実施状況) 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報通信コース (達成度) (所見) 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報通信コース 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報通信コース
<ul style="list-style-type: none"> ・環境土木コース ① 関係機関との連携を図りながら、インターンシップを実施し、生徒の専門に関する知識と進路選択に役立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境土木コース ①-1 インターンシップ参加生徒数を2年生で40%以上とする。 ①-2 インターンシップ報告会、課題研究発表会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境土木コース (評価指標による達成度) (活動計画の実施状況) 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境土木コース (達成度) (所見) 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境土木コース 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境土木コース
<ul style="list-style-type: none"> ・建築コース ① インターンシップを通じて企業との連携を密にするとともに、生徒の進路選択に役立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・建築コース ①-1 インターンシップに生徒の20%以上が参加できるようにする。 ①-2 インターンシップ体験後の生徒アンケート実施結果で満足度が4段階で平均3.5以上を目指す。 ①-3 3学期に課題研究発表会を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・建築コース (評価指標による達成度) (活動計画の実施状況) 	<ul style="list-style-type: none"> ・建築コース (達成度) (所見) 	<ul style="list-style-type: none"> ・建築コース 	<ul style="list-style-type: none"> ・建築コース
<ul style="list-style-type: none"> ・総合デザインコース ① インターンシップや企業・大学訪問を通じて企業や大学との連携を密にするとともに、生徒の進路選択に役立てる。 ② 実習・課題研究を充実させ、コース展や各種コンペに参加し、対外的な活動を更に充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合デザインコース ①-1 インターンシップに生徒の20%以上が参加できるようにする。 ①-2 企業・大学訪問を実施する。 ②-1 令和3年度コース展を実施し、地域・中学校などにPRする。 ②-2 それぞれのテーマに分かれた課題研究に取り組み、成果を出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合デザインコース (評価指標による達成度) (活動計画の実施状況) 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合デザインコース (達成度) (所見) 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合デザインコース 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合デザインコース
<ul style="list-style-type: none"> ・海洋科学・海洋総合コース ① フィールドワークやインターンシップを積極的に実施するとともに、関係機関と連携した出前授業や施設見学を実施し、水産・海洋分野に興味関心をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・海洋科学・海洋総合コース ①-1 漁業体験やフィールドワーク等を各学期1回以上実施。 ①-2 出前授業を年2回以上実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・海洋科学・海洋総合コース (評価指標による達成度) (活動計画の実施状況) 	<ul style="list-style-type: none"> ・海洋科学・海洋総合コース (達成度) (所見) 	<ul style="list-style-type: none"> ・海洋科学・海洋総合コース 	<ul style="list-style-type: none"> ・海洋科学・海洋総合コース

		② 実習において SCITECHI ノートを活用し、生徒が自ら考え取り組む態度を身につけさせる。		② SCITECHI ノートを活用した実習を月 1 回以上実施する。					
学 校 自 己 評 価									
年 度 目 標					年 度 評 価 (3 月 1 日 現 在)				
番号	重点課題	重点目標	活動計画	活動の評価指標 (目標値)	評価指標の達成状況	総合評価	効果と検証	次年度への課題と改善策	
26	工業・水産教育 ① 専門性の基礎・基本を重視するとともに地域や産業界と連携した教育の在り方を模索し、社会の変化や産業界の動向等に適切に対応できる人材の育成を目指す。	① 工業や水産に関する専門的な技術の習熟度を高め、技能の向上を図る。(各類・コース) ② 専門的な知識・技能を身につける教育活動を展開し、各種資格や検定の合格者または合格率の増加を図る。(各類・コース) ③ 各種競技会等へ積極的に参加し、専門技術等を高める教育を展開する。(各類・コース)	・全類全コース ① 各コースの実態に即して、技能検定等の実施やものづくりコンテストへの出場を目指す中で、技術の向上に努める。 ② 資格取得を奨励し、資格補習を積極的に実施する。	① 各コース毎に、技能の向上を目指した取組をする中で、各種コンテスト・大会へ出場し、各専門分野での上位入賞を目指す。 ② 工業系では、「ジュニアマイスターゴールド」取得者15名以上、「ジュニアマイスターシルバー」30名以上を目指す。 ③ 海洋系では「水産海洋技術検定」「漁業技術検定」「栽培漁業技術検定」の合格率90%以上を目指す。	(評価指標による達成度) (活動計画の実施状況)	(達成度) (工業) (海洋) (所見) (工業) (海洋)	(工業) (海洋)	(工業) (海洋)	
			・情報科学コース ① 科目「実習」においては、口頭試問を実施し、自ら学び、考え、問題を解決する態度を育成する。 ② 資格取得を奨励し、資格補習を計画的に実施する。 ③ 各コンテストに積極的に取り組む。	・情報科学コース ① 期限内実習レポート提出率95%以上を目指す。 ② 情報技術検定2級の合格率が80%以上。ITパスポート試験合格5名以上。基本情報技術者試験合格2名以上。 ③ 各コンテストの入賞を目指す。	(評価指標による達成度) (活動計画の実施状況)	・情報科学コース (達成度)	・情報科学コース (所見)	・情報科学コース	・情報科学コース
			・環境科学コース ① 科目「実習」においては、口頭試問を実施し、自ら学び、考え、問題を解決する態度を育成する。 ② 徳島市内を流れる河川の水質調査を行い、県内関連企業と連携して、郷土の自然環境の保護に積極的に取り組む人材を育成する。 ③ 資格取得を奨励し、資格補習を計画的に実施する。 ④ 科学論文発表(ポスター発表)を目標に積極的に取り組む。ものづくりに係わる競技大会を目標に積極的に取り組む。	・環境科学コース ① 期限内実習レポート提出率95%以上を目指す。 ② 県内関連企業との連携を図る。 ③ 危険物乙4の取得率が80%以上を目指す。 ④ SSH発表会(校内、県、四国)での発表を目指す。ものづくりコンテスト四国大会に出場し上位入賞を目指す。	(評価指標による達成度) (活動計画の実施状況)	・環境科学コース (達成度)	・環境科学コース (所見)	・環境科学コース	・環境科学コース
			・機械コース ① 資格取得を奨励し、資格補習を計画的に実施し、合格率のアップを図る。 ② ものづくりに係わる競技大会を目標に積極的に取り組む。	・機械コース ① 2級ボイラー技士(2年)の合格率を補習出席者の60%以上。機械製図検定(3年)の合格率を65%以上を目指す。 ② ものづくりコンテストで、県内優勝し、四国大会に進出する。また、四国地区高校生溶接技術競技会では県内大会を勝ち抜き、本大会に出場する。	(評価指標による達成度) (活動計画の実施状況)	・機械コース (達成度)	・機械コース (所見)	・機械コース	・機械コース
		・生産システムコース ① メカトロニクス関連企業に就職する際、学習していて良かったと評価されるような実習をしっかりと実践する。 ② コースの基幹となる資格を取得できるよう、最大限のサポートを	・生産システムコース ① シーケンスなどの制御関連や3Dプリンタを活用した学習を充実させる。 ② DD3種において、クラス	(評価指標による達成度) (活動計画の実施状況)	・生産システムコース (達成度)	・生産システムコース (所見)	・生産システムコース	・生産システムコース	

		<p>する。</p> <p>③ 各種の技術的なコンテストに応募出場し、賞を得る。</p> <p>・電気コース</p> <p>① 資格試験に計画的に取り組み、適切な指導を行い合格率を上げることにより、知識・技能の向上と、主体性の確立を目指す。</p> <p>② ものづくりコンテストに出場することにより、技能の向上を目指す。</p>	<p>60%以上の合格率を目指す。</p> <p>③ ロボット競技など、全国大会出場を目指す。</p> <p>・電気コース</p> <p>① 1学年の第2種電気工事士合格率90%を目指す。</p> <p>② 県大会2位以内、四国大会入賞を目指す。</p>	<p>・電気コース (評価指標による達成度)</p> <p>(活動計画の実施状況)</p>	<p>・電気コース (達成度)</p> <p>(所見)</p>	<p>・電気コース</p>	<p>・電気コース</p>
		<p>・情報通信コース</p> <p>① 資格取得を奨励し、資格補習を計画的に実施する。</p> <p>② ものづくりに係わる競技大会を目標に積極的に取り組む。</p>	<p>・情報通信コース</p> <p>① 国家資格取得を目指し、一人2つ以上の資格を取得する。</p> <p>② マイコンカーラリーで四国・全国大会出場を目指す。</p>	<p>・情報通信コース (評価指標による達成度)</p> <p>(活動計画の実施状況)</p>	<p>・情報通信コース (達成度)</p> <p>(所見)</p>	<p>・情報通信コース</p>	<p>・情報通信コース</p>
		<p>・環境土木コース</p> <p>① 専門知識の理解と意欲向上のため資格取得を目指す。</p> <p>② ものづくりコンテスト測量部門に出場をする。</p> <p>③ コンクリート甲子園に出場する。</p>	<p>・環境土木コース</p> <p>① 2級土木施工管理技術検定・学科試験70%以上、測量士補20%以上の合格を目指す。</p> <p>② 四国・全国大会出場を目指す。</p> <p>③ 入賞を目指す。</p>	<p>・環境土木コース (評価指標による達成度)</p> <p>(活動計画の実施状況)</p>	<p>・環境土木コース (達成度)</p> <p>(所見)</p>	<p>・環境土木コース</p>	<p>・環境土木コース</p>
		<p>・建築コース</p> <p>① 有益な資格を取得させ、検定の合格を目指す。</p> <p>② ものづくりに係わる競技大会を目標に積極的に取り組む。</p>	<p>・建築コース</p> <p>① 有益な資格取得を目指し、2つ以上の資格を取得する。</p> <p>② ものづくりに係わる競技大会で、県予選突破し、四国大会に進出する。</p>	<p>・建築コース (評価指標による達成度)</p> <p>(活動計画の実施状況)</p>	<p>・建築コース (達成度)</p> <p>(所見)</p>	<p>・建築コース</p>	<p>・建築コース</p>
		<p>・総合デザインコース</p> <p>① 有益な資格を取得させ、検定合格率向上を目指す。</p> <p>② 資格取得を奨励し、資格補習を積極的に実施する。</p> <p>③ デザイン分野の各種コンクールに出品し、入賞を目指す。</p>	<p>・総合デザインコース</p> <p>① レタリング70%以上、トレース80%以上、色彩検定60%以上の合格率を目指す。</p> <p>② 補習に積極的に参加させる。</p> <p>③-1 ものづくりコンテストで県大会突破を目指す。</p> <p>③-2 課題研究の作品を各種コンペに出品し、入賞10以上を目指す。</p>	<p>・総合デザインコース (評価指標による達成度)</p> <p>(活動計画の実施状況)</p>	<p>・総合デザインコース (達成度)</p> <p>(所見)</p>	<p>・総合デザインコース</p>	<p>・総合デザインコース</p>
		<p>・海洋科学・海洋総合コース</p> <p>① 1年生で基本的なロープワークを身につけさせる。</p> <p>② 四国地区の水産系高校の生徒研究発表会や意見体験発表会およびSSH生徒発表会に参加する。</p>	<p>・海洋科学・海洋総合コース</p> <p>① 基本的な5種類のロープワークを習得している生徒の割合90%以上を目指す。</p> <p>② 四国大会で最優秀賞をとり、全国大会出場を目指す。</p>	<p>・海洋科学・海洋総合コース (評価指標による達成度)</p> <p>(活動計画の実施状況)</p>	<p>・海洋科学・海洋総合コース (達成度)</p> <p>(所見)</p>	<p>・海洋科学・海洋総合コース</p>	<p>・海洋科学・海洋総合コース</p>

学 校 自 己 評 価								
年 度 目 標				年 度 評 価 (3 月 1 日 現 在)				
番号	重点課題	重点目標	活動計画	活動の評価指標 (目標値)	評価指標の達成状況	総合評価	効果と検証	次年度への課題と改善策
27	家庭・地域等との連携・貢献 ① 保護者への連絡・学校の情報提供を、文書とホームページへのアップの両方で	① シャトル便の積極的な活用を図り、家庭との連携を密にするとともに、生徒の社会規範確立を目指す。また、PTA活動への積極的な参画を進め、保護者と教員がより頻繁に意見を交換する機	① 生徒・保護者・教員相互の関わりについて研修を深める。 ② 体育祭や文化祭のPTA活動における内容の検討と充実を図るために保護者との連携を密にする ③ 学校と家庭との連携を密にし、ホームページでの行事参加の呼び	① 保護者・教員参加のもと学校行事関係のPTA役員会を2回以上実施する。 ② 体育祭・文化祭関係の四役会への役員の参加90%以上を目標にする。 ③ PTA活動の案内をシャトル便からClassiに移行し、I	(評価指標による達成度) (活動計画の実施状況)	(達成度) (所見)		

	行う。	会の充実に努める。 (企画部・総務課) (企画部・企画広報課)	かけをする。	CT化を図る。				
28	② 各事業の担当がそれぞれに報道資料を提供するよう、システムを確立する。	② 積極的な情報発信・広報活動を行い、地域と密接に連携、貢献できる学校づくりに努める。 (企画部・総務課) (企画部・企画広報課)	① 地域・大学等と連携した事業を積極的に実施する。 ② 本校の活動を積極的に広報する。	① 地域・大学等で小学生を対象とした出前授業を実施する。 ② 新聞やテレビなどのメディアを通じて積極的に行う。	(評価指標による達成度) (活動計画の実施状況)	(達成度) (所見)		
29	③ 中学校関係者への学校紹介イベントの年間スケジュールを積極的に広報する。	③ ホームページや中学生体験入学、中学校訪問等を通して、本校の教育内容・教育活動についての広報活動を積極的に実施する。 (教務部・教務課) (企画部・総務課) (企画部・企画広報課)	① 各課やコースの特色について、中学生に興味・関心を持ってもらえるような内容を検討し、より多くの目的意識と類の特色を理解した中学生に受検してもらう。 (教務部・教務課) (企画部・企画広報課) ② 広報内容を吟味し、速やかな情報発信を行う。 (企画部・企画広報課) ③ 中学校を訪問し、本校の教育内容・教育活動について説明し、中学校教職員に本校について理解してもらう。 (企画部・企画広報課)	① 体験入学参加者へのアンケート調査で、満足度の4段階評価が3.6以上とする。 ② 学校ホームページの更新回数を月3回以上とする。また、緊急連絡についてホームページを活用しすみやかに全関係者に周知できるようにする。 ③ 近隣中学校への学校訪問を年1回以上実施する。	(評価指標による達成度) (活動計画の実施状況)	(達成度) (所見)		